

うめくさ-11

岡山縣師範学校博物学会の「顕花植物自然分科 各科之特徴」

植物の名前を調べるに際して、所属する「科」がわかれば、あとの同定作業が楽になるのは昔も今も同じである。そこで、「この植物は何科なのかを調べる手段」がいろいろと考案されてきた。「岡山縣師範学校」は旧岡山藩の藩校であった温知学校から明治9（1876）年に改称・改組され、現在の岡山大学の前身となった学校である。この師範学校に「博物学会」があつて、大正3年の2月に「顕花植物自然分科 各科之特徴」という謄写版の本を出した。「各科之特徴」は上述の狙いで企画されたもので、表紙にはナデシコとモウセンゴケが配置されており（図-1）、緒言にあたる部分には以下のよう

- 一、「顕花植物自然分科 各科之特徴」ハ我が博物学会大正二年度ノ事業トシ会員ノ為ニ作ラレタルモノニシテ幾分タリトモ植物学研究ノ初歩並ニ小学校植物科教授ニ参考トナル所アラバ吾々ノ意、達セルモノト云フベシ。
- 一、ココニ顕花植物二百科ヲ選ビ「顕花植物自然分科 各科之特徴」トナセルモノ羊歯植物苔蘚植物ノ高等ナルモノノミニツキ約三十科ハ尚後ニ完成スル所アラン。（中略）
- 一、是ガ研究ノタメ草木図説及Gray's School of field book of Botany ヲ貨セラレタル米田先生、顕花植物分類学上下、師範教育植物教科書、植物自然分科検索表ヲ貨セラレシ井上先生及「刷り物」ニ尽力アリシ小林君石野君福富君黒田君杉田君其他ノ諸君ニ深謝ス。

宇野確雄
金光 勲
桑村計徳
田淵暲男
原萬壽夫
長谷井照雄

（大正三年二月二十七日）

凡例に相当する「注意事項」には次のような事項が書かれており、最後に宇野氏の追記がある。この追記からも、本書がもっぱら宇野氏の手で成ったことが伺える。

- 一、科ノ模式植物ハナルベク當地方ニ普通ナルモノニシテ且善ク特徴ヲ具ヘタルモノニ資センコトヲカメタリ。

四、注意欄ハ主トシテ其科所属ノ植物名及ビ其ノ効

用及注意事項ヲ掲ゲタリ。

余独断ニテ取捨シタルハ実ニ誤ヲ多カラシメ不完全ナラシメタル一原因ニテ前以テ謝ル所ナリ 又図中特徴ト一致セザルモノ及不明瞭ニテ写ラザルモノハ又遺憾トスル所ナリ図ノ多クハ他書ヨリ轉載シタレドモ原図トアルモノハ余ノ写生シ作製セシモノナリ ぼろぼろのき（一四三）（原図）ハ米田先生ノ標本ニヨリシモノナリ（宇野）

記述は、その科の代表的な1種を「模式植物」にあげて図示し、科に共通する特徴を記して、最後に「注意」として備考に相当する情報を示す形をとっている。ミズアオイ科を取り出すと以下のようである。

一七六 水葵科 *Pontederiaceae*

模式植物＝みづあふひ（みずあふひ科）

- 一、浮游セル植物ニテ假單條ノ茎ヲ有ス葉＝二列ニテ低出葉基部鞘状ナリ
- 二、花＝穂状ニ排列ス両性ナリ概ネ三ノ数ヨリナリ 花被＝同種ニテ花辨状ナリ基部合一シテ長キ管状ヲナス
- 三、雄蕊＝六又ハ三個（稀ニ一）不等ノ高サニ着生ス



図-1 岡山縣師範学校博物学会発行の「顕花植物自然分科 各科之特徴」の表紙

四、雌蕊=子房ハ瘦果ニシテ胚ハ円柱状ナリ

注意=鑑賞 (ほていあふい みずあふい)

くろも、せきしょうも、みずおほぼこ、
やなぎすぶた、とちかゝみ、等ハ本縣ニ
普通ナリ

現在、岡山県ではミズアオイの復活・増殖に関する市民レベルでの取り組みが行われているが、大正期の初期にはミズアオイなどの水草が普通に見られたことが知られる。「注意」には地元岡山県での状況があまり書かれておらず、ミズアオイ科は例外である。

「注意事項」の末尾に、「図ノ多クハ他書ヨリ轉載」とある通り、原図とあるのは、「なつぐみの鱗皮、しなのき、ほるとのき、じゃけつ いばら、ぼろぼろのき」の5点のみである。

「水葵科」の模式植物ミズアオイの図は「植物図鑑 東京博物學研究会編 牧野富太郎校訂 北隆館 1908 p.648」から採られたものと思う。ミズアオイ科の次にある177、鴨跖草 (つゆくさ) 科のツユクサの図 (図2-a) は、「内外實用植物図説 齋田功太郎・佐藤禮介 大日本図書株式会社 1907 p.360 (図2-b)」からのものであろう。科の第1に置かれたキク科の模式植物はタンポポである (図3-a)。この構図でのタンポポの図はこの時代に幾つかあるようだが、「女子理科 植物 岩川友太郎・藤堂忠次郎 弘文館 1903 p.9 (図3-b)」

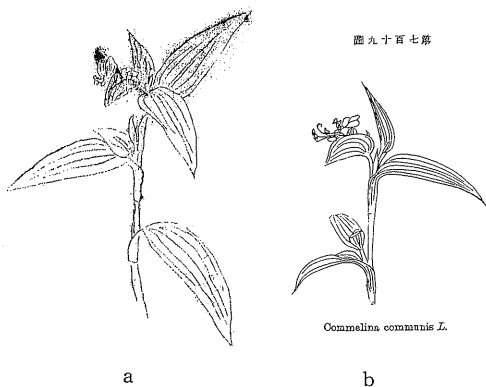


図-2 「顕花植物自然分科 各科之特徴」のツユクサ科の模式植物ツユクサ (a) と元になったと考えられる「内外實用植物図説 齋田・佐藤1907」のツユクサ (b : 大日本図書株式会社許諾)

が一番近いので、これを基にしたのではないかなと思う。

「倉敷市自然史博物館 開館記念展 1983

日本の植物・世界の植物 一宇野コレクションより」所収の宇野先生の略歴によると、「1895 (明治28) 年に倉敷市に生まれ、1915 (大正4) 年に岡山師範学校卒業、その後県内の小学校訓導を歴任し、和歌山、兵庫、京都で教鞭をとり、1945 (昭和20) 年に倉敷市に戻り、1953 (昭和28) 年~1965 (昭和40) 年の間ノートルダム清心女子大学講師を務め、1978 (昭和53) 年に倉敷市文化章受賞」となっている。1984年に逝去された。海外からの交換品を含め、先生が全国で採集された4万点に上る植物標本は1978年に倉敷市自然史博物館に寄贈され、「宇野コレクション」となっている。(宇野先生のご経歴は岡山市在住の植物研究家小島裕子氏にご教示頂いた、厚くお礼申し上げます。)

「顕花植物自然分科 各科之特徴」は宇野先生19歳の時の著作ということになり、若くして多くの情報を整理されていたことに驚かされる。

(ツユクサの図とタンポポの図の掲載を許諾された大日本図書株式会社と株式会社 吉川弘文館に厚くお礼申し上げます。) (も)

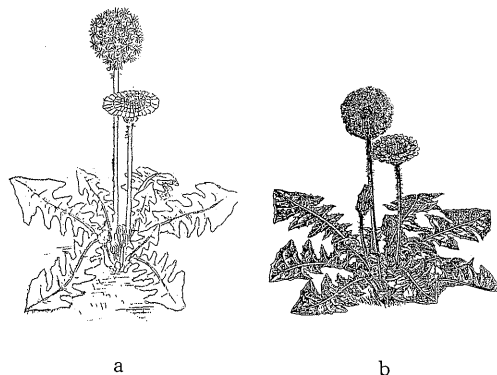


図-3 「顕花植物自然分科 各科之特徴」のキク科の模式植物タンポポ (a) と元になったと考えられる「女子理科 植物 岩川・藤堂 弘文館 1903」のタンポポ (b : 吉川弘文館許諾)